

## 宍粟市都市計画マスタープラン 基礎調査の概要

## 全市の状況

## ○人口

- ・人口は減少が続いており、今後もその傾向が続く見込みで、20年後の平成52年には平成27年（約3.7万人）の2/3以下である約2.2万人になると推計されています。
- ・高齢化率は増加しており平成27年で32.1%ですが、今後さらに高まり平成52年には47.3%で生産年齢人口の44.2%を上回ると推計されています。
- ・通勤・通学流動は、姫路市、たつの市、佐用町などの周辺市で流入・流出ともに多い状況です。

## ○産業

- ・平成27年時点での就業人口は、第1次産業が4.6%、第2次産業が38.8%、第3次産業が55.6%で、第1次・第2次産業は減少傾向、第3次産業は増加傾向にあります。
- ・産業の状況としては、農業は農家数、経営耕地面積が減少、林業は林野面積が横這いで林家数が減少、商業は事業所数が減少で年間商品販売額が増加、工業は事業所数、従業者数、製造品出荷額等のいずれも減少傾向にあります。

## ○住宅

- ・平成25年時点で空き家数は2,100件、空き家率は14.0%となっており、平成20年と比較して約540件、3.2ポイント増加しています。

## ○法規制

- ・山崎都市計画区域が指定されています。
- ・兵庫県土地利用基本計画においては、農業地域、森林地域、自然公園地域、自然保全地域に位置付けられており、都市地域は存在しません。
- ・「緑豊かな地域環境の形成に関する条例（緑条例）」に基づく緑豊かな環境形成地域（環境形成地域）の指定がなされており、森を守る区域や川とさとの区域、まちの区域などが指定されています。

## ○都市交通

- ・広域の都市間交通としては、中国自動車道を運行経路とする高速バスが運行されており、神戸、大阪、京都、津山市方面を結ぶバスが運行されています。
- ・本市内は定額200円の路線バス（㈱ウエスト神姫、篠陽タクシー(有)）が運行されており、公共交通空白地は解消されています。

## ○都市構造評価

- ・最寄り緊急避難場所までの平均距離が人口同規模の他都市と比較して長くなっています。

## 都市計画区域の状況

### ○人口

- ・人口は減少が続いているものの、全市と比較するとその傾向はゆるやかです。（平成 23 年が 18,300 人、平成 28 年が 17,800 人）

### ○土地利用

- ・山崎インター付近を中心に市街地が形成されており、北側は住宅や商業・業務施設、公共施設、南側は農地や工場、商業・業務施設が多く立地しています。
- ・用途地域界の縁辺部や白地都市計画区域では、農地が多く残っています。
- ・過去 10 年で土地利用の大きな変化はありません。

### ○都市施設

- ・都市計画道路は 8 本計画されていますが、今宿庄能線のみ改良済みで他は未整備です。
- ・下水道は計画区域 717ha に対し供用区域が 715ha で、ほぼ 100%の整備率となっています。
- ・都市公園は 9 公園あり、5 公園が都市計画公園で 4 公園が整備済です。

### ○農地転用・開発動向、新築動向

- ・平成 25 年以降の農地転用は年間約 50～150 件で推移しており、目的別に見ると、太陽光発電施設が最も多くなっています。
- ・平成 25 年以降の都市計画法 29 条による開発許可申請は 6 件で、物品販売店が 3 件、工場用地が 1 件、物流倉庫が 1 件、老人福祉施設が 1 件となっており、既成市街地以外での開発が多くなっています。
- ・平成 25 年以降の新築件数は毎年約 60 件から 80 件の間で推移しています。

### ○法規制

- ・山崎都市計画区域は非線引きで用途地域の指定があります。
- ・地区計画は野地区で指定されており、住宅地区として良好な都市環境の保全、形成が図られています。

### ○都市機能立地

- ・市役所や保健福祉施設、公立病院等の公共施設の多くは中国自動車道北側の市街地に集積しています。
- ・保育所、幼稚園、小学校、中学校等は公共施設等同様、中国自動車道北側の市街地に多い状況ですが、小学校や保育所、幼稚園は市街地から離れた集落にも立地しています。
- ・スーパーマーケットやコンビニエンスストアは、中国自動車道南北の市街地に分散して立地しており、一部は市街地から離れた集落にも見られます。

### ○防災

- ・山裾を中心に土砂災害計画区域が指定されているほか揖保川や伊沢川、菅野川の沿川等では浸水想定区域が指定されています。